

Crow

暗黒界の鴉

う~~~~… うわっ!

うなされた… TV画面を見ると、DVDのメニュータイトルがエンドレスで流れている。ああ、またやっちゃった。…あれ? 何か変だぞ? どうやら、DVDのせいだけでもなさそうだ。
 「どうしたんです? 随分と久しぶりじゃないですか。私だって、貴方に用があって、会いたいと思ってたんですよ」と、私は不自然に暗くなって部屋の壁に向かって話しかけた。すると、壁の一部が黒くなり、ゴウっばかりに浮き上がり、肩にカラスを乗せた悪魔が姿を現した。
 「ふむ、久しぶりだね。今夜も黙って通り過ぎようと思ったんだけどね、なに、相変わらず電気は点けばなし、DVDは消さない、君のだらしないさに注意を促そうと思って留まっていたのだよ」
 「はいはい、申し訳ありませんね…」気がつく、先ほどのカラスが悪魔の肩を離れて、退屈そうに部屋の中をばさばさ飛び回っている。
 「ところで、君が私に用とはいいたい何だね。どうせ、ろくでもない用…」悪魔は話しながら、カラスを捕まえようと、小道具の鎌を振り回している。
 「ちょっと、ちょっと、そんなもの振り回して…危ないじゃないですか、いや、用というのは、少し頼みたいことがあって…」
 と、言うや否や「はっ、はっ、何だね、頼みごと? 何だというんだ、君、まっとうな人間が、悪魔に頼みごととはね、穏やかじゃないね、え?」悪魔は、黒いマント怒らせて威圧してきた。
 「そんな、脅しには乗れませんよ。そんなの、もうすっかり見慣れて…あれ? なにやってる! ちょっと、やめろ…」狭い部屋の中を飛び回るのが飽きたカラスが、今度はそこらじゅう歩き回って、机の上のものを引っかきまわしたり、引き出しに顔をつっこんだり、滅茶苦茶にしている。
 「ちょっと、何なんです、このカラスは? どうにかして下さい! なんてこんな行儀の悪いカラスを連れてくるんです!」
 「いや、面目ない…躰がまだ完全じゃ…しかし、カラスはね、暗黒界では非常に、有益な存在であってね、しかも…」悪魔はたじたじになり、言い訳をしている、その間も、カラスはやりたい放題。しかもそこへ、表から帰って来たグーニーが、この様子に驚いて、鼻を脹らませて怒りだし…た、と思ったら、次の瞬間、悪魔は、カラスと共に、ひらりと黒い壁を開いて、姿を消した。
 あ~よかった…
 また、頼みごとが出来なかったけど、まあ、それで、よかったのかな…



鎌倉の猫事情 第八十話

COLUMN

そう、それから……です。茶トラとグーニーが昼日中、ものすごい格闘をした後の事です。見た人もいます。2匹が格闘している姿が携帯の写メールにも残っていました。彼らの去った後に、ふわふわと猫の毛が舞っていたのです。その毛の淡い茶色からすると、茶トラが不覚をとったようなのです。グーニーも心配でしたが、こうなると茶トラも心配です。何しろ逃亡中の身なのです。案の定グーニーは何事もなかったかのように家へ帰ってきてゆったりと毛づくろいをしていました。そして、それからしばらく茶トラの消息は不明でした。たまたまグーニーに負けたとは言え、ボスの風格あふれる大猫の茶トラのことです。どこかで、元気にやっていることだろうと思っていました。あの道路での格闘の一件があっただけのくらいが過ぎていたでしょうか、町には木枯らしが吹き始め、外をうろうろするのもうすら寒い気がし始めたころでした。夜になって私は日課のスーパー銭湯へ行こうと、お風呂道具を持って出掛けるところでした。暗くなった道の街灯に照らされてよろよろと歩いて行く、茶トラの後ろ姿を見つけたのでした。なんとまあ、落ちぶれて! 可哀そうに、後ろ足を少し引きずりながら、すっかり痩せこけて、ふさふさしていた毛はよれて張りもつやもなく、なんとか体を支えて歩いているという風体なのです。思わず、私は声をかけて追いかけようとしたのですが、一瞬振り向いた茶トラの顔は、悲しげで以前の、何ともいえないいたずら者の愛嬌が消えうせているのです。私は本当に涙ができました。この短い間にあんなに痩せ細るなんて、きっとグーニーとの喧嘩の傷痕が癒えず、ちぢこまって暮らしていたのでしょう。茶トラが死ぬ…… 私は、たとえ無駄でもなんとかしてやりたかった。家を出て、独り生きる猫は最後は、寒空で野垂れ死ぬ運命です。彼らはそれを立派に全うします。誰の助けも求めず、泣き言も言わず、最後は独りきりになって目を閉じ、苦痛に耐え、独り最後の時を待つのです。人間などよりずっと、潔く、どうどうと最後を迎えます。それが茶トラの選んだ生き方なのです。それが、分かっている、なんとかしたかった。もう、何年もつきあってきたのです。猫達は車の下が温かくて好きです。だから駐車場に集まります。茶トラも来ます。私は私の愛車の後ろにお皿を置き、毎日餌を置きました。それは、翌日にはすっかりなくなります。長い間続けました。たぶん、茶トラも何度かは食べたと思います。一度くらいは、見かけることも出来ました。が、もう、いません。たぶん、もう、いないのです。茶トラは、ひょうきんな奴でした。なっつこい奴でした。本当はいい奴でした。それに…友達でした。茶トラは、野良に生きる猫の運命を、立派に全うしたのです…

to be continued

Harper's BAZAAR

JULY 1939



HISTORY

ミルクホールのルーツ 17

先月、私は名古屋の家族と共に、父と4年前亡くなった義兄の遺骨を、京都のお寺に納めに行ってきました。30数年前に亡くなった母の遺骨もその寺に納めてあったからです。私の故郷には墓がありません。母が亡くなった時、私達姉妹はいずれ他家へ嫁ぐだろう考えた父は、墓を建てず、母を京都の本山へ納めたのでした。その父と、若くして白血病で亡くなった姉の夫を連れ、姉、姪、私の3人旅でした。父と私達姉妹の3人で母を納めに行った30数年前を、懐かしく思い出しました。オーディオ好きの父が、私達に「JAZZ喫茶を廻って行こう」と持ちかけ、喪服の親子連れで、70年代の京都の町をJAZZを聞き巡ったのでした。何とも奇妙でわびしく、それと共に、始めて父と大人の付き合いをしたような心躍る旅でした。その同じ道をまた辿ったのです。4年前に白血病で亡くなった義兄は、49歳の若さで病魔に侵され、当時姉達は骨髄移植の可能性を求めて必死に奔走しました。それは果たされることがありませんでしたが、その過程で知った事は、骨髄の型が一致するという事は、医学的に見てDNAの型が近いという事、つまり遠い先祖のどこかで、血縁関係があったことを示しているのだそうです。白血病患者の方達が、骨髄提供者を捜すということは、すなわち自分のルーツを捜し求める旅路でもある、ということなのです。奇縁な事に、この義兄の生家は伊豆荊山であり、今年亡くなったこの家の母、磯見や糸の生家のすぐ近くで、この両家は古くから代々荊山に住む一族同士の、今なお親しい間柄だったのです。私が鎌倉へ嫁いだ時から、不思議な因縁に満ちた関係でした。姉はぼつりと、「もしかしたら、鎌倉の人達の中には、夫と骨髄の型が合う人がいたかもね…」と、言いました。

鎌倉幕府を開いた源頼朝と、北条政子の時代から
鎌倉と伊豆荊山は、縁の深い土地でありました。次号へ続く

場所の記憶 31
KAMAKURA



LIVE

Milk Hall
12月のライブ

ライブチャージはありません。
お気軽にご参加ください

12/5 Fri. **JAZZ**
19:30~ 山岸 諒子

12/20 Sat.
19:30~ 琢磨 仁
琢磨 啓子
by HALF MOON

12/31 Wen.
21:30~
~ 0:00
2009 1/1

HALF MOONは、
愛と平和を歌います

2008
カウントダウンを、ミルクホールのライブで・・・
新しい年明けを鎌倉の除夜の鐘で迎えませんか？

& **1/11 sun.** 満月の夜 **LIVE**
琵琶と尺八の夕べ 19:30 ~

DINNER SET

好評のミルクホールのディナーセット
魚料理と肉料理を、お好みで・・・

オードブル サラダ
メイン ディッシュ DINNER TIME
パン or ライス PM 5:30 -- PM8:00
デザート
コーヒー or 紅茶 ¥2200 ~

Information

「鎌倉ミルクホールタイムス」

ミルクホールタイムス総集編

ミルクホールタイムス創刊号から100号までを編集した
ミルクホールタイムス総集編。
現在連載中の「鎌倉の猫事情」、初回から前編終りま
で掲載しています。 ¥1800

ミルクホールタイムス
定期購読募集

ミルクホールタイムスは、毎月25日の定期刊行致してい
ます。定期購読ご希望のお客様には、毎月25日に発送
致します。メール、FAX、お葉書などでお申し込みを。
年間定期購読料 ¥1500

THE 2008 ANTIQUES

LAST BAZAAR

2008年最後の
アンティークバザール
残り物には福がある・・・
掘り出し物のチャンスです。
今年最後のお買い物
をミルクホールで！

**伊万里・古陶磁
和洋家具
古民芸
アンティーク**

12/20 Sat. 27 Sat.

全品 20% ~ 50% OFF

♠ 和洋家具

明治初期の衝立
大正時代京筆筒 三段
大正時代ガラス水屋
昭和初期丸テーブル
明治・大正時代小筆筒各種
昭和初期デスク色々
明治～昭和文机各種
大正時代ガラスケース

◆ アンティーク

50'S眼鏡屋ポスター油絵
額入り鏡各種入荷
ハート型額入り鏡
大正・昭和初期色ガラス各種
明治・大正のガラス各種
鉄製ディスプレイ用小物台
浮世絵ガラス絵入荷
夢ニシルクスクリーン額



♣ 古民芸・骨董

大正時代鏡台
お椀・茶托・御膳
道教の壁画
灯籠台天燈器
浮世絵硝子絵
アフガン石仏
古瓦各種
北齊仏頭大理石
火鉢・五徳

♣ 古陶磁

**伊万里・古伊万里・
明治べる藍・大正色絵等々**
古伊万里染付鉢
幕末伊万里そば猪口
明治錦絵七寸皿
明治銅版小皿
伊万里輪茶碗・そば猪口
古伊万里豆皿・なます
明治瀬戸石皿・鉢
伊万里蓋お碗各種



✂ アンティーク着物

大正・昭和の秋の着物入荷

着物は新しく仕立てると高価なものです。古着で眺めれば驚くほど安価で、古い着物は布地も仕立ても丁寧で上質です。特に初心者の方にお勧めです。まず、着て見ましょう

綿・ちりめん・銘仙・お召し・小紋
琉球絨・久留米絨・大島絨・など

銘仙 ¥3800～
小紋 ¥4800～
男羽織 ¥7800～

✂ 半衿・帯揚げ

半衿と帯揚げのコーディネートは、着物のおしゃれのポイントです。同じ着物と帯でも半衿と帯揚げでガラリと雰囲気が変わります。ミルクホールの、半衿・帯揚げは古い着物を解いて作っています。粋に鹿の子絞りをあわせたり、ちり緬で品良くまとめたり、花柄の半衿で大正風コーディネートなども。

半衿 ¥500より 帯揚げ ¥800より

ミルクホールオリジナル

ささめや ゆき イラスト入り

マグカップ・デミタスカップ・
グラス5種・ローションポンプ

ミルクホールオリジナル 和の小もの

✂ 古布

半衿・帯揚げ
日本の上質な絹もの くるみボタン
1mより 色々 かんざし
大島紬・絞り・銘仙など

日本の古い着物を丁寧に解いて布地にしました。柄の見やすい巻物にしてあります。ご希望の長さ等、お申し付け下さい。

1mにつき、1000円くらい
端布組み合わせ
¥300より

✂ 帯・つくり帯

大正・昭和のアンティークの帯、ミルクホールのオリジナル半幅帯、おたいにのつくり帯など。帯は、締めるのが面倒です。つくり帯は、簡単に結べて、体を締め付けません。初心者の方だけでなく、着慣れた方にもお勧めします。

名古屋帯 ¥3800～
半帯 ¥2500～

✂ かんざし

とんぼ玉かんざし
ミルクホール製
くるみボタン
くるみボタン ¥100より
くるみボタンのコーム
木のかんざし 花のかんざし
¥1800より ¥2500より

